

第2回安芸高田少年自然の家利活用検討委員会 次第

日時 平成29年8月2日(水) 10:00～
場所 安芸高田市役所第2庁舎2階 221会議室

1. 開 会 (委員長あいさつ)

2. 協議事項

(1) 安芸高田少年自然の家の利活用案の検討

【資料2、資料3、資料4、資料5】

3. 事務連絡

4. 閉 会

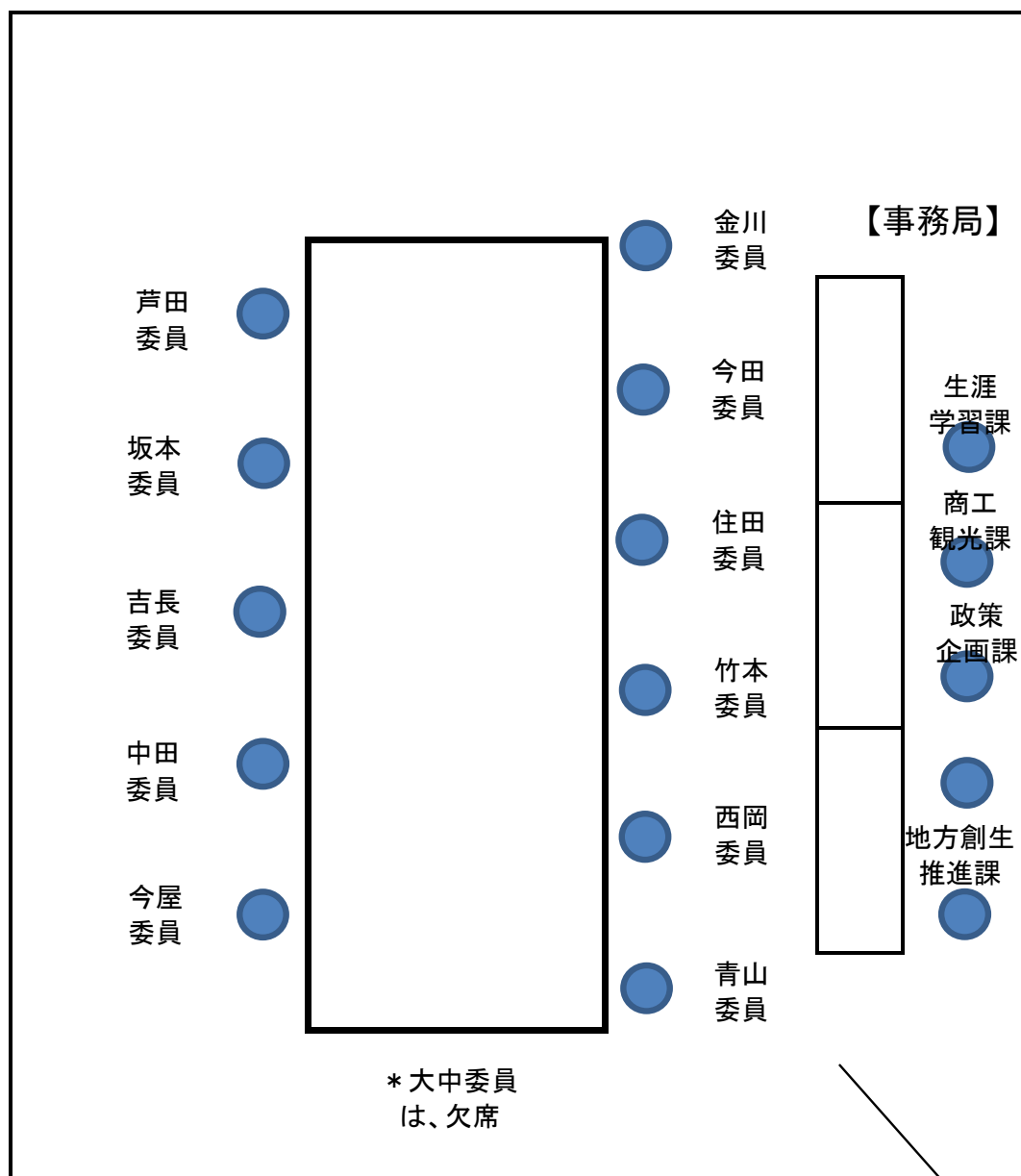
安芸高田少年自然の家利活用検討委員会委員

所 属		氏 名
県立広島大学 客員教授		吉長 成恭
安芸高田市商工会		今屋えい子
安芸高田市工業会		坂本 守夫
安芸高田市観光協会		住田 希
安芸高田市ふるさと応援の会		中田 幸子
地域代表		今田 基良
利用者代表		芦田 宏治
		金川 佳寛
		大中 康治

委員（行政）	副市長	竹本 峰昭
	企画振興部長	西岡 保典
	産業振興部特命担当部長	青山 勝

事務局	地方創生推進課	高下 正晴 戸田 邦昭
	政策企画課	行森 俊荘
	商工観光課	松野 博志
	生涯学習課	小椋 隆滋

第2回 安芸高田少年自然の家利活用検討委員会配席表



安芸高田少年自然の家利活用に関する意見

委員名： 安芸高田市商工会

意見・提案	意見・提案の理由	懸念される事項
1 跡地広場を公園化し、市民の憩いの場として活用する	営利目的とした事業にはそぐわない 郡山城跡として、市民が気軽に楽しめる場所が少ないため	民間活力による施設改修、運営は無理だと思う
2 本館を解体し、お祭り広場等多目的用途をもたせる	営利目的とした事業にはそぐわない 郡山城跡として、観光的な方面から考える	民間活力による施設改修、運営は無理だと思う 市が広場として管理運営をして、市民が清掃等を手伝う
3 体育館を残して、文化創造センター的役割を持たせる	営利目的とした事業にはそぐわない 郡山城跡として、観光的な方面から考える	民間活力による施設改修、運営は無理だと思う
* 廃止する前に検討委員会を開催するべきではなかったのか、との意見がありました		

委員名： 安芸高田市工業会

意見・提案	意見・提案の理由	懸念される事項
4 観光協会、旅行代理店と連携して、外国人向けに安芸高田市周遊のプランを作り、簡易宿泊施設として活用。入浴がNGであれば、シャワーだけでも利用できれば大きな問題にはならないと思われる。（外国人にこだわる必要はないが、市の方向性として外国人に売り込むのは良いのではないか）	多くの観光客が来広しているにもかかわらず、安芸高田市へ足を運ばせないのは勿体ない。 宿泊の問題を解決する手段として、リーズナブルな施設としてアピール。バックパッカー等、かえって気に入ってもらえるのでは？	耐震強度の問題があるままで、施設として利用できるのかどうか。通訳等の対応

5 運営を民間に委託して、全てのプラン・アイデアを民間にゆだねる。その中で、取捨選択すべき点(法的な課題等)を検討する	幅広い視野で、利活用を捉えることのできる企業はあると思われる。船は船頭に任せることも必要かも知れない	耐震強度が解決できなければ、何もできないと言うことになるのかどうか
6 沿岸部の牡蠣小屋に対抗して、安芸高田市の良質な和牛・新鮮なジビエ肉を使用したバーベキュー施設「肉小屋」を開店(飲食店舗)	広島市内ではバーベキューを手軽に楽しめる施設が少ない。広島市から1時間の立地でドライブにはちょうど良い。地元産の牛肉は抜群に美味しくリーズナブル。新鮮できちんと処理されたジビエ肉の魅力(美味しい・ヘルシー・リーズナブル)を発信	シーズン・天候・曜日で客足が左右される(目的を商売ベースにするのか、情報発信におくのか)
7 上記の施設とともに、グラウンドをオートキャンプ可能な宿泊施設(RVパークに登録)にする キャンプファイヤーや星空観察を売り物にする(宿泊スペース)	キャンピングカーや車中泊がブーム 外部電源・トイレ・シャワー・洗面・ゴミ処理の施設は稼働するが、宿泊棟は不要になる(夜間の管理が不要) ここを拠点に市内観光スポットへ誘導することで、市内の道の駅や産直市・温泉施設と相乗効果あり 市内にビルダー(キャンピングカー制作メーカー)があり、共同でイベント開催すると集客可能 公共交通機関が少ない弱点が強みになる	夜間の騒音(今までもキャンプファイヤーなどしていたので問題ではないかも) 車両の出入り(大きさに規制必要?)

8 キャンピングカーのレンタル基地 (観光基地)	自家用車でドライブがてら来てもらい、ここを拠点として利用 市内の道の駅や産直市・温泉施設と相乗効果あり キャンピングカーや車中泊がブームなので、ここを拠点に市内観光スポットへ誘導 市内にビルダー(キャンピングカー制作メーカー)があるので初期費用面でも強みがあるかも	初期投資大またはリースの期間リスクあり 稼働率
9 ・合同庁舎(複数の公的な異業種組織のオフィスを集約した建物)として活用する ・併せて子育て支援、高齢者福祉施設として活用する	異業種組織の連携が徐々にとられつつあると思うが、さらにスピード感をもって取り組むことが必要。オール安芸高田でまちづくりをすすめる拠点として整備する	・要(核)となる組織をどうするか
10 施設の名称を「少年自然の家」の名称から「少年」を削除し、「自然の家」または「自然のひろば」あるいは、まったく別の名前する	「少年」でない人が使ってもかまわないことになっているとは言え、この施設に馴染みのない方にとっては、この二文字が利用の際の障壁になると思う	
11 “Three Arrows ! ” 毛利元就が3人の息子たちに一致団結を唱えた逸話は有名。そこで、もしかしたら、「吉田郡山の毛利隆元、山県郡日野山城の吉川元春、三原城の小早川隆景の3兄弟が父である元就を支えたおかげで、秀吉に迫られるまでの間、西中国を一手に支配できた」という歴史をキーワードにするという考えを基本思想にならないだろうかと考えた そして、3つの地を統べて、ひとつの“何か”を学ぶ、あるいは、ひと	四国の88箇所巡りは素人目に見れば、88箇所全部を巡って、ひとつの大きな充足感が得られるという感覚があるのではないかと。87箇所巡るも88箇所巡るも、体力や時間の消耗はそんなに大きな違いがあるものではないが、「最後の1箇所」を巡るか巡らないかでは、心の満たされ方に大きな違いがあると思う もちろん、吉田郡山以下の「毛利傑児の三名	残念ながら、この三位一体推進プランを具体化させる妙案は、今のところ私には持ち合わせがない。また、他の2自治体との合意が得られるかどうかはわからない。さらに言えば、毛利三兄弟の里とするなら、「一の里」「二の里」「三の里」と序列がつくことになりませんが、この順番をめぐる3市町に不公平が生まれることも避けられない。長男～三男の順に「一の里・吉田郡山」

つの“何か”を体験する方法を考えていく	所」をすべて巡ったところで、到底、四国の「88」という大きな数字には及ばないが、「3箇所すべて巡れば何か大きな、目には見えない何かの収穫がある」という認識を持ってもらえれば、それなりに有意義なネットワークの構築ができるかもしれない	「二の里・山県」「三の里・三原」という単純な考え方の他に、「隆元は早世したのだから吉田は二か三」とか、「元春が最も武勇に長けていたのだから山県が一の里」とか、「隆景こそが知謀に優れ後々の歴史に貢献したのだから三原こそが一の里」とか、様々な思惑が出てくるかもしれない。ほかにもいろいろな問題や課題が発生することは容易に推測するが、おそらくは、細かいことはその都度都度で解決策を見いだしていけるものとする
このほか、「毛利三傑児」に「瀬戸の村上」を加えて4名所にしても良いかもしれない。 ※この提案についての具体的な方法の資料あり	当時、村上水軍は、因島、能島、来島の三島を主要拠点として、今のしまなみ海道に相当する列島ラインを制していたと、何かで読んだように記憶している。しかし、今のしまなみ海道のような瀬戸内から尾道経由ルートをとるのではなく、海路を経てまず三原へ上陸し、三原から幾多の山を越えて吉田へ向かったと同書には書かれていた。三原ルートをとった背景には、三原の小早川隆景の存在が影響していたのかもしれない。 毛利の軍勢が海戦を行う時にはきまって村上軍の援助を得ていたような印象がある。毛利軍が厳島で陶晴賢の大軍を破った時も、村上軍の援助がなければおそらく勝利すること能わ	

	ず、その後の毛利西中国支配の歴史は変わっていたかもしれない。それだけ、毛利と村上の関係は重要であったと思われる。	
◇安芸高田、山県、三原の3地区で1つの線がつながるような伝統あるいは産業はないか、調査する ◇3地区の関係を結ぶ伝統・産業を見いだしたとして、どのようなPRストーリーが望ましいかを検討する。三地一体となるストーリーを構築できれば理想的 ◇歴史に明るい人に依頼して、衆目を集めるような話題をさらい出せないか、検討する ◇話題作りが完成したとして、その後、少年自然の家の施設をどのように活かしていけるか、アイデアを募る		
12 テーマは“おむすび”です。 (1)まず、山県地区では「花田植え」行事を活用して、育苗から田植えの部分を人々に印象づける (2)そして、三原地区における収穫(稲刈り、脱穀、古典的な精米等)を体験または学習してもらう (3)最後に、竈を用いた炊飯を少年自然の家で行い、日本一おいしいおむすびを作る	米という食べものは、じつに不思議な側面がある (1)の段階では、米は「イネ」と呼ばれる(山県のイネ) (2)の段階では、文字どおり、「コメ」(三原のコメ) (3)の段階では、調理済みの状態で、「メシ」になる(安芸高田のメシ) そして、おむすびの味付けには、「伯方の塩」を使う 3つの街と瀬戸の島を結ぶ“お結び”、毛利と村	

	上とを関係づける“お結び”、人々の心を結ぶ“お結び”。 天下“一”の安芸の空のもと、3つのお結び(“米俵”)を配する家紋、「安芸の“お結び”」は、日本一の“お結び”ができるという話の流れ	
13 安芸高田市内企業の独身寮、もしくは若手のシェアハウス	企業内に個別の独身寮がないため、車通勤圏以外の地域から雇用することが困難になる また若手社員の自立化を促し、市内企業に勤める同世代との交流は、将来地域を担う人材をつくる意味でも有意義だと考える	居室の改装(1人部屋づくり) 独身寮の管理人の雇用 共有施設の改装(キッチン、シャワー室など)
14 一日バザーの開催 これと安芸高田市の食の文化や元就時代(歴史の紹介展示)の鎧兜・神楽に使用される雅な衣装の展示を含めたもののイベント開催とBBQを格安に提供して、2～3時間はこの広場に留まってもらう	安芸高田市・市民・工業会・商工会が一丸となって展開してはどうか。個人的には地元のお父さんお母さんに参加協力を頂き、工業会の存在をもっと知って欲しい。この存在を子たちに伝えて欲しい	お天気
15 バザー出品に農家の納屋奥に収めてる珍品等お宝拝見できれば尚、結構だと思う		
16 サンフレッチェ・カープの応援に行けない市民の人たちのためにこの広場に大スクリーンを設け応援観戦を開く	親子で楽しみ、飲食コーナーを格安で設ける	アルコールの持ち込みを禁止してマナーある行動を期待したい
17 空いているスペースにフィットネス設備を設置して、市民の方に少額で使用して頂き、健康促進に役立てて頂く	高齢者の方の運動不足が目立っているので、運動する機会と、みんなで運動すれば怠けずに継続できるのでは思い提案した	フィットネス設備の初期設置費用と、通う為の交通の便が無い

18 保育園として活用	入園待ちの児童が増加しているので	保育士の確保、通園手段が無い
19 吉田運動公園、サッカー公園と連携し、スポーツ合宿の施設として利用出来ないか	・サッカー公園が有り、人工芝での練習・合宿出来る場所は近郊に福山くらいしか無い。また、吉田運動公園にて多目的なスポーツが出来る場所が有る	・食事、宿泊の問題
20 農業体験・・・都会の若い人を対象に農業を体験する企画	・最終的に農業の体験を期に、安芸高田市に定住しようと思う人が増えればいいかと	・食事、宿泊の問題
21 受験生の為に勉強できるスペースの提供		
22 オートキャンプ場とか、日帰りレジャーの出来るスペース		
23 安芸高田市の野菜を使ったピザ作り体験工房		
24 農作業をオサレにカッコよく出来る 田畑のクラブハウス及び簡易宿泊施設	ゴルフのクラブハウスに簡易宿泊施設を融合し 平日は団塊世代をメインターゲットに、休日は若者を狙う 日帰り、宿泊どちらでも対応可能な施設 レンタルで農地、農機具や軽トラの貸出を行う 農業の初級講座、中上級者向けセミナー開催 や、イベントの開催、例えば 草刈りをBMXなどのXゲーム風に演出し大会を行う	沢山
25 安芸高田市の中古住宅を買って定住するためリフォーム工事 中の仮住まいの施設	古民家等の中古住宅を施主自身がDIYで修繕、リフォームしたいが、現在住んでいる所から遠い為に断念された	

委員名： 安芸高田市観光協会

意見・提案	意見・提案の理由	懸念される事項
26 郡山城跡ガイド案内場所、休憩所、お土産販売所	外には三矢の訓えの碑があり、郡山城のガイド案内の拠点に最適	水道周り 管理人
27 宿泊施設として再度活用はできないのか 又はキャンプ場としての活用	吉田町に宿泊する施設が 1 軒しかないので、あ ると助かる	水道周り 管理人
28 天候に左右されず遊べる、子どもの遊び場空間	子どもが室内で遊べる場所が少ない。大型遊 具、ボルダリング、ボールプールのような体を使 って室内で楽しめる施設	大幅な改修工事が必要

委員名： 安芸高田市ふるさと応援の会

意見・提案	意見・提案の理由	懸念される事項
29 議論する必要はない	平成 28 年 2 月、議会が既に廃止条例を出して いるので	議決された後も検討委員会が立ち上げられた 以上、再度、使用方法を考える必要があるの ではないか
30 地域に任せてはどうか	地域の方が利用されたいのだから現状のまま 地域の方に運営管理をお任せする	施設が大きいのので地域だけで維持するのは難 しい
31 サッカークラブチームの合宿所	サンフレッチェもあるから	ボイラーや食堂施設を見る限り難しいのではな いか

32 神楽体験	“安芸高田と言えば神楽”特徴ある施設にしてほしい	
33 有効活用されることを望みます	小学校から高校まで子ども会行事や部活の合宿などたくさんの思い出があるので利用してほしい	
34 三角棟は残してほしい	ボルダリングに最適だと思うので	
35 サバイバルゲーム	郡山城周辺をすべて使えるので	
36 プロジェクトチームを立ち上げる	思い出だけでは残せないが早急に結果も出せないなので時間をかけてゆっくり話し合いたい	
37 更地にして芝生公園にしてはどうか	規制や制約が多いので建物を撤去して平らにするしかない。サッカーやバレーができるようにしてほしい。ネットを張るなど	
38 民間の知恵を借りる	大手の力を借りることもできるか	
39 寄付を集める	資金集めのため	
40 子育て世代の人の集まりのために残してほしい	安芸高田市の活力は子育て世代にあるので、その活動拠点となれば良い	
41 小規模で良いので宿泊施設は残してほしい	安芸高田市には民泊を推奨されるが宿泊施設がない	川根エコに同じような施設があるのではないか
42 イベント会場にしてたくさんイベントをしてほしい	向原で開催されているイベントを行ってほしい ビアガーデン、夏まつり、猪鹿祭り、夜神楽など	

43 非常時の避難場所として残してほしい	ベッドがあって宿泊施設もあるので	
44 縮小してでも食堂施設は残してほしい	増築で作られた食堂機能は使えるので	食堂は時間帯や曜日によって売上にならない時間はあるが、その時の人件費はどうするのか
45 大手の再生事業にお願いする	全国の使わなくなった保養施設を立て直しを専門としている業者に一任する	そういう業者は観光地を専門としているのではないか
46 体育館は遊技場にしてはどうか	ラジコンコース、ミニ四駆コース、スケボーコース、ローラースケートコースなど	広さと安全性を確認する必要がある
47NPO 法人を立ち上げてはどうか	知恵と資金を集めるため	
48 バーベキューコーナーを作ってはどうか	町内では炭を使える場所がないので	
49 冒険の国を活用してはどうか	一段下がっているので囲い込んでドッグランにするとペットを飼っている人が集まってくる	専門の人の知恵を借りる必要がある
50 市役所の庁舎の一部として使用してはどうか	市役所が手狭に見えるので一部の課を分けると良い。例えば、商工観光課を持ってきて観光一式を扱う場所とする	
51 毛利記念公園	郡山城からの出土品を陳列して専門公園にする	歴史民俗博物館とはかぶらないか
52 事業団にまかせる	上の施設と合わせて事業団に一任する	市役所の負担が増えるのではないか
53 一心祭りなどの祭りの会場にする	町の中心にあるので人が集まりやすい	サッカー公園とダブらないか

54 駐車場にする	市役所周辺に入り組んだように置かれている駐車場をまとめる	庁舎から遠くなる
55 減築してでも残してほしい		
56 地域活動に和室を利用してほしい	1階の和室は大きいので踊りのお稽古などにも使えるのでは	
57 子どものために使ってほしい	2階のベッドを取り除けば小部屋ができるので子どもの活動拠点としてはどうか。例：子ども新聞、神楽面づくり、工作教室など	
58 三角棟を階段教室にしてはどうか	三角棟のベッドを取り除けば階段教室に似ているので、1階は一般に、2階は子どものために開放	
59 食堂の一部で産直をしてはどうか	施設のどこかで安芸高田のふるさと産品を販売する場所がほしい	

委員名： 地域代表 _____

意見・提案	意見・提案の理由	懸念される事項
60【防災公園として整備】 ①現在の平屋部分のみ耐震化等整備し、平常時は会議室・イベント会場等として使用する ②災害発生時には建物・芝広場とも避難所として使用する	①少年自然の家は閉所されるまでは災害発生時の避難所であった ②大規模災害時に市民文化センターへ避難者	①二階建て部分や三角棟等の取り壊しが可能か ②いくつかの災害発生の中で、郡山で土石流が発生した場合、土砂に直撃されることがあるか

③芝広場は子どもたちの遊び場や地域の行事などに開放する ④地域の防災関係資機材の保管場所とする ⑤自主防災組織の防災訓練場として利用	が集中するのはいかがなものか ③市民文化センター周辺も、多治比川の氾濫時には水没が予想され、小高いところの避難所も必要である ④完全民間施設となった場合、「三矢の訓碑」が観光ルートとなっており見学に不都合ではないか。よって、民間施設は望ましくない ⑤少年自然の家的时候は、沢山の家族や子どもたちの遊び場・憩いの場となっていた。こういった憩いの場は減らすべきではない。今は、ひっそりとした1つの空き家であり、子どもも近づかない	も知れないが、その確率は100%ではない。よって、避難所として活用は可と思うが。「いつとき避難場所」としては十分である
61【老人福祉施設として民営化】 (地域で出された意見)		①どこまでの耐震化工事が可能か

委員名：利用者代表 _____

意見・提案	意見・提案の理由	懸念される事項
62 諸活動の活動拠点として活用	子ども会、スポーツ少年団、神楽門前甲子園などの宿泊場所として提供	食事などは業者を選定し、必要に応じて提供する
63 民謡、カラオケなど、民間で取り組まれている諸活動に、場を提供する	各グループとも活動の場の確保にはかなり苦労をしている	鍵は近所の人に依頼し、保管してもらう 部屋の改修が必要となる
64 災害時の避難場所として利用する	地域周辺の住民の避難場所であった	

65 大通院谷公園と一体化した活用	大通院谷公園を整備し、グラウンドゴルフ場を設置し、その利用者が自然の家を利用するように整備する	
66 みんなの家「輝ら里」として再出発 少年自然の家は、小・中学生の利用が大半であった。(高校生・大学生の利用もあるが少数) これからは幼児から高齢者まで誰でも利用できる施設にする この施設は安芸高田市の中心部にあり、市内の公共施設の中では交通の便も良い。安芸高田市民がいつでも誰でも利用できる施設として利用したい 利活用のキーワードは「学ぶ・楽しむ・育てる」 この施設を拠点にして次の5つのことを実践する 1 自然に親しみ自然を楽しむ 2 歴史や文化に学ぶ 3 楽しくエコ生活を学ぶ 4 たくましい子どもを育てる 5 世代間交流の促進 その他 災害時の緊急避難施設として活用 施設の運営形態としては次の2案が考えられる 1案 ○宿泊なし ○施設管理者を置かない ○利用者責任型(活動・施設利用にすべて責任を持つ)	少年自然の家は築44年経過しており、新耐震基準を満たしていないという課題はあるが、10年前に1億9000万円かけてリニューアルしてあり、工夫の仕方によってはまだまだ利用可能である 安芸高田市には子どもからお年寄りまで、気軽に集まって遊べる施設が少ない。また、スポーツ団体、文化団体、ボランティア団体など市内にはいろいろな団体があるが事務所などの活動拠点がない。この施設を利用して団体間の連携ができれば地域の活性化にも結びつく 国指定の関係で大きな改修や建て替えのできないこの施設はとことん使いきるのが一番節約になる利用法であると考え 提案1から5を実践する主な理由 1 鳥獣害対策でどの地域もワイヤーメッシュが張り巡らされており、気軽に入れる山はほとんどなくなってしまった。郡山は国の史跡で観光地ということもあり柵もなく、禁猟区なので子どもから大人まで安心して山登りや自然観察が楽	耐震基準を満たしていないの施設なので、現行のままでどの程度の利用が可能か調査の必要あり 1案は今まで管理費の大部分を占めていた人件費、水道光熱費、賃借料(毛布・布団など)がかからなくなるメリットはあるが、子どもたちに団体生活を教える上で必要な宿泊ができなくなるのがネック。また、1年間通して施設をどのように管理していくか検討が必要 2案の場合、旧自然の家の縮小版になるので極端な管理経費の削減は難しいが、管理・運営方式の見直しにより管理費は少年自然の家の時よりかなり削減は可能である NPO 法人の運営や、利用を希望する団体間の連携、事業の受託などにより新たな収入源を見出すことが大切である 利用料金の設定など綿密な収支計画を立てていく必要がある

○利用する施設(事務所・研修室・食堂・野外炊事場・体育館・グラウンド) メリット ・管理者を置かないので人件費がほとんどかからない (鍵の管理、施設の見回りは必要) ・宿泊を受けないので宿泊等、三角棟、浴場は不要になる また、宿泊にかかる費用も不要 ・利用施設が大幅に縮小されるので水道光熱費が格段に下がる ・施設が開いていれば誰でも気軽に利用できる デメリット ・施設管理者をおかないので利用者(利用団体)がすべて責任を持って対応することになる。責任者の負担が大きくなる ・管理者がいないので今までのように小・中学生が個人的に遊びに来るのは安全上課題がある ・施設の清掃やグラウンド、施設周辺の草刈りをどこがやるか責任を明確にしておく必要がある ・施設を借りるときの鍵の管理や使用後の点検が課題 2案 ○宿泊あり ○施設管理者(最低一人)を置く ○利用者責任型(活動・施設利用にすべて責任を持つ) ○利用する施設(事務所・研修室・宿泊棟(2F の5室と指導員室)・浴場・食堂・野外炊事場・体育館・グラウンド) メリット ・施設管理者がいるので安心して利用できる	しめる山である 2 この施設は、戦国の武将「毛利元就」が居城とした郡山城のふもとにあり、郡山城を登ることは中世の歴史を学ぶことにつながる。また、近くに安芸高田市歴史民俗博物館があり、歴史や文化を身近に学ぶことができる 3 この施設は管理経費を最小限にした施設に生まれ変わることが至上命題。お年寄りの知恵を借りてエコを学び実践する場にするとともに、いろいろなことを我慢することがエコにつながることを教えていきたい 4 安芸高田市の次世代を担う子どもたちをたくましく育てるのがわれわれの役割。芝生のグラウンド、野外炊事場、体育館、食堂、浴場、宿泊棟、研修室が備わった施設は近辺には無い。また、郡山の麓にある大通院谷川砂防公園が施設のすぐ近くにあり、子どもを安心して遊ばすことができる自然豊かな公園である 5 幼児からお年寄りまで、世代を超えて交流できる環境を作っていくことで、人や地域とのつな	宿泊を可能にしておけば、緊急時の避難に利用するには適した施設であるが、施設が急傾斜被害想定区域に指定されており、災害の状況によっては利用できない恐れがある
--	---	--

・施設の利用予約が可能 ・日中は管理人がいるので小・中学生も放課後利用が可能 ・施設の清掃・草刈りなどは施設管理者に任せられる ・利用団体が連携することで1～5に関するいろいろなイベントを企画し実践できるようになる デメリット ・管理者をおくので人件費がかかる ・宿泊を受ける場合宿直が必要になる ・管理経費は少年自然の家よりコストダウンになるが1案のような大幅なコスト削減は難しい ・管理経費をどうやって捻出していくかが課題 2案の場合、管理者は非営利法人(NPO)が望ましいと考える	がりを深めていくことが地域の活性化につながり、移住・定住の大きな力になっていく その他 災害時の緊急避難施設として活用 近年、集中豪雨がいたるところで発生し、大きな災害につながっている。どの市町でも緊急避難先は体育館が利用されているが、避難が長期間になるとプライバシーが保ちにくい体育館では避難者の肉体的、精神的な負担は測り知れない 安芸高田市でも江の川流域をはじめ支流などでの河川の氾濫や土砂災害なども心配される。現在各地域で指定されている避難施設が必ずしも安全ではない場合もある この施設は高台にあり、マックス200名が宿泊可能である。(体育館などを使えばプラス50人可能) 上記4に記している通り、食堂、浴場もあり長期の避難を余議なくされた場合でも体育館より肉体的、精神的負担ははるかに少なくすむ	
67 郷土環境学習・子育ての場としての活用 ・毛利元就の居城郡山城のふもとに位置し、多治比川・江の川にも近く自然と歴史に恵まれている	歴史資源として毛利元就、郡山城は他の地域で真似できない地域のたからである 地域で学ぶ場として、郷野小学校(国交省水辺	リスクマネジメント 事故や食中毒の対応など、青年の家など厨房を利用者解放している施設もある。調査研究が

・子育て世代の親子が触れ合える場所として、工作・野外炊事など屋内外に既存の環境が整っている ターゲットとする利用対象 ・子育て世代の親子をターゲットに、持ち込み食材で食事を作れるファミリーテラスを区画整理（仮に冒険の国、野外炊事場奥側広場） ・2階宿泊棟を日中、家族単位に貸し出す （イベントや食後など休憩できる） ・1階宿泊棟を改修しキッズスペースにし、利用者に貸し出す （三次市で事例あり） ・市外に出て消費することから、市内で郷土体験を深める事の消費にシフトする。若い世代の考え方を変えていく施設に ・風呂場も子どもプールに開放 利用を想定する時間帯 ・週休日の8:00-18:00は常駐スタッフで対応 ・平日は、市内学校の野外活動や郷土学習に活用し、教員引率のもと、鍵の貸出により対応 対応するスタッフ ・子育て支援員、ファミサポなど既存の枠組みの活用を検討 ・教員 OB や有志による教育研究支援 NPO を立ち上げ（三次科学技術協会）、事務所の共同管理を行う	の学校）とリンクして位置づけを確立する 自然の家は山、郷野小学校は川 安芸高田の若者定住を促進していく柱として、親子の触れ合いの場として位置付ける 三次は、運動公園、ワイナリー、美術館など滞留ゾーンを整備し、新たに子どもの室内遊び場「みよし森のポッケ」を29年6月にオープンした。利用者はすでに1万人を超えている UI ターンなど田園回帰が見直されつつある今、親子ふれあいの場は、確実にニーズがありまた、整備する市町の印象アップにつながる。近隣の成功モデルを研究し、安芸高田の強みを活かしつつ取り入れていくべき 地域でモノと事を消費する仕組みをつくる 市の事業で予算化されている以下の事業から、枠組みを作れないか（人件費） ファミサポ 480万円 子育て支援260万円 水道光熱費をペイできる利用料金体験を試算し物件費をカバーする	必要 週休日に対応できるスタッフの確保 ⇒みよし森のポッケ、近隣で視察しやすい。運営上の課題など実際に聞いてみてはどうか 維持管理費の確保 ・人件費は類似する事業の拡充により充てることが可能か ・光熱費を利用料金でペイできるか 維持管理 ・清掃、修繕含め日常の管理をいかに効率的に費用を抑えてできるか
--	---	--

・団体の自主活動を支援し、平日の利用に対応できる可能性 料金体系の見直し 厨房の一般開放 ・民間事業者への間貸し ⇒用途指定外で補助金返還の可能性 ・使用料金の規定等を見直し、他の公共施設の調理室と同様に一般利用開放する ⇒食育の場として新たな活用の可能性 その他 68 高校ハンドボール部を設立し全国から有力選手を集める ⇒トップアスリート育成寮 69 マツダ系技術職の育成の場 ⇒ものづくりワークショップ	指導スタッフの体制は、NPO 立ち上げが望ましいのではないかと。自然の家に限らず市内の各所に出向いて文化・歴史・自然を学習指導できる組織 青少年教育事業費に放課後子ども教室開設委託を指導スタッフにも拡充できないか 190万円 学力向上以外に、郷土体験の充実が必要不可欠 安芸高田市は中学校から流出率が高く、戻る仕組みが失われている 郷土での濃厚な経験・体験を作っていく必要がある(いかだレースなど)	
70 体験ツーリズム施設(日帰り型)として活用	・自炊施設や食堂、研修室、体育館、特殊なつくりの三角棟など、多種多様な設備があること、従来の体験プログラム用の備品等もそろっている特徴を活かして日帰り型の体験プログラムが企画できると考えられる ・近年、観光・旅行の目的として物見遊山だけでなく、現地でしか体験できないこと、一風変わった体験、昔懐かしい体験等を求めるニーズがあ	・企画内容、コンテンツに魅力がなければ、集客は見込めない懸念もある ・商工観光課、観光協会、ガイド協会の協力が必要 ・事務局としての対応が必要

	るように思われる。日帰りでの体験プログラムであれば、十分受け入れができると考えられる	
71 自然の家守プロジェクト ⇒利用したい人・趣旨に賛同する団体等が登録費を出して利用する。一定のルールに従って、自由に使ってもらう	・利用料はなるべくかけたくないが、切実に利用を望む市民、団体はおり、そのニーズになるべく対応できるように、利用料は定額で負担可能な額とし、その分利用が増えるような仕組みを検討する	・日中は管理人が必要
72 郡山レストハウス ⇒郡山登山客に休憩場所として使ってもらう。コーヒー、菓子などの軽喫茶程度の営業も可能なら行う		・土日の対応が必要となる
73 運営の基本方針を「安芸高田少年自然の家」をベースにした「安芸高田里山生活楽校」とする	・学校教育では教えてくれない事、いわば「安芸高田ライフスタイル」を学ぶことができる場所とする ・短期宿泊型の事業運営で施設の有効活用ができる ・講座のキーワード: 歴史、里山、スポーツ、暮らし、チームワーク、食、文化、6つの町。地域の資源を活かすことができる ・先生は地域の人たち、暮らしの名人など市民主体	・現在あるソフトや資源の掘り起こし、磨きをかける作業に取り組む必要がある

74 安芸高田市内の点在する施設(学校、スポーツ・文化・公園など)とのネットワークによる運営を行う	・ネットワークにより多機能及び魅力を高めることができる ・吉田町の施設から安芸高田市民の施設、事業にすることができる	・地域体制づくりにどこまで踏み込むことができるか
75 安芸高田市民の世代間交流のできる宿泊型の家に	・3世代がこの施設に来れば自然に交流ができるように。豊かに生きていく上でコミュニケーションが大事 ・1泊2日、2泊3日のプログラムを提供することにより自然に交流ができる ・年寄り世代の元気応援と平日利用の促進へ結び付ける	・計画的、戦略的なプログラムの提供が必要。しかしながら安芸高田市には潜在力がある ・市の施策に反映
76 事務所スペース 机単位に事務所を共有するいわゆる SOHO 形式の事務所として、小さな団体が事務所として利用できるように整備する	地元振興会や国際交流協会などをはじめとする市内にある各種 NPO 法人、PTA 連合会、子ども会連合会などの団体には、資金も乏しくて事務所作業をする事務所を持つこともできていないために、不便さを余議なくされている 協働の事務スペースは、事務機器や人、資源を共有することができるので、コストを抑えて事務所を持つことができる	各団体における基本的な事務費や人件費のための財源確保や人材の確保が懸念点である
77 食堂施設 景観や立地条件を利用した雰囲気のあるレストランとして活用する	企業や団体などは、市内中心部に100人以上の規模で食事や宴会、レセプションなどがおこなえる場所がないために、市外にでかけている。また市内に大きな会場を持つことで、2次会などで市内飲食店への流れをつくり、市内景気	市内にはない魅力あるレストランを整備するための人材と継続的な経営である。全国に公募することで、適切な人材を配置することが必要である

	を高める	
78 宿泊棟	市内中心部に宿泊施設がないため、交流人口による支出が市内中心部で少ない。宿泊施設をもつことにより地域の夜を活性化できる。また、これからのインバウンドを考えればバックパッカー等自由に動ける旅人が、気軽に泊まれる施設が必要である そして災害時における避難所またはボランティアの宿泊施設として利用が可能となる	耐震性はどこまで求められるか 顧客のニーズに合った施設にどこまで近づけることができるか
79 入浴施設 宿泊者用としては当然利用することに加えて、地域のコミュニティ風呂、銭湯として活用する	少人数でも宿泊者がいる場合には、入浴施設を稼働させる必要があり、光熱費が大きな負担となっている。しかし地域のコミュニティ風呂として、銭湯機能を有する風呂施設として稼働することで光熱費負担を低減する また、地域住民で交通手段のない高齢者などの憩いの場所としての活用する際のサービスとできる	広さが懸念されるが、宿泊者と住民利用の時間帯を分けることで対応する。レジオネラ菌等の発生による営業停止が考えられるが、徹底した管理体制で臨む必要がある

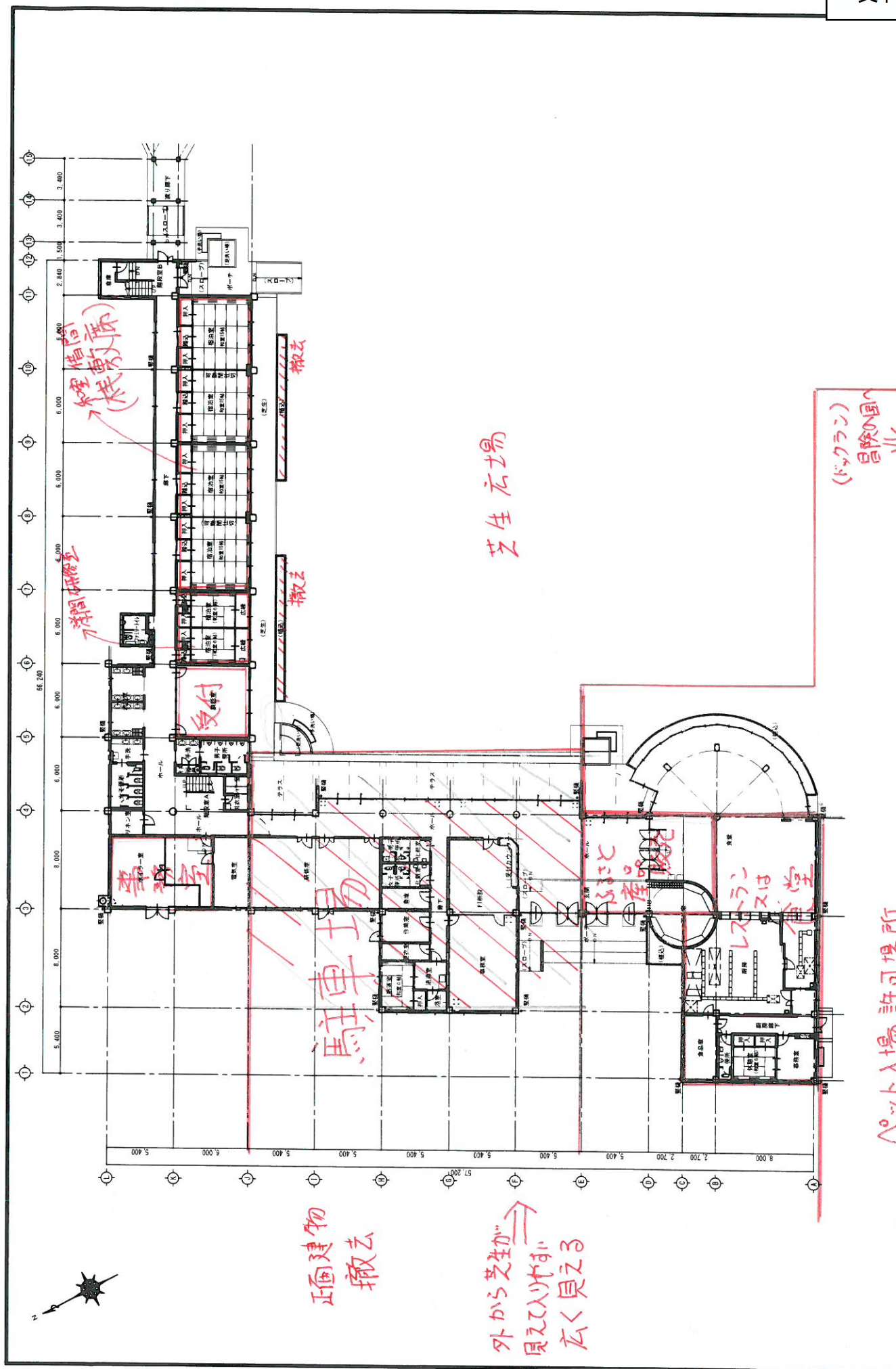
80 三角棟 中央を円形ステージとしたコンサートや講演会、研修等の会場として活用する	円系ステージを要した施設は少なく、いろいろなイベント企画ができる また、映画スターウォーズの議場をイメージできる施設であり、ひとつひとつの箱にテーブルと電源を設備することにより、会議や研修、学会などに利用できる	運営基盤の創造性と企画力を必要とする
81 体育館 雨天時の子どもの遊び場となっている	これまでどおり活用	
82 グラウンド キャンプや野外活動、スポーツなどに活用できる 上記の活動に影響することのない程度、遊具の整備をして、公園的な利用ができるようにする	地域の公園は、小さな子どもを持つ親たちの要望であり、場所的にも買い物の帰りなどに寄れる場所として、高い利用率が見込まれる	
83 バーベキュー棟 食堂と連携し、何も持ってこなくてもバーベキューが楽しめる場所とする。またジビエなどが楽しめるようにすることで利用価値を高める	バーベキュー棟を気軽に使えるようにすることで、稼働率を上げる。またジビエを提供することで、ジビエの販売を拡大でき、新たな産業おこしにつながる	ジビエが入手困難になると考えられる。その場合には、その他の肉で対応してバーベキューができるばいい
84 その他 これからの人口減対策に向けて、日本語教室として一部利用する	日本語学校の生徒は留学生であり、卒業後将来的に地元就職してもらうことができる。インターンシップ的な採用ができれば将来の人口減対策の一翼を担う また留学期間は、週 28 時間以内であればバイトもできるので、多少ではあるが人材不足をしている小規模商店などの雇用確保にもつなげら	留学生の受入や多文化共生への地域の理解が求められる 就業時間制度をこえない雇用を守らせること

	れる	
--	----	--

意見

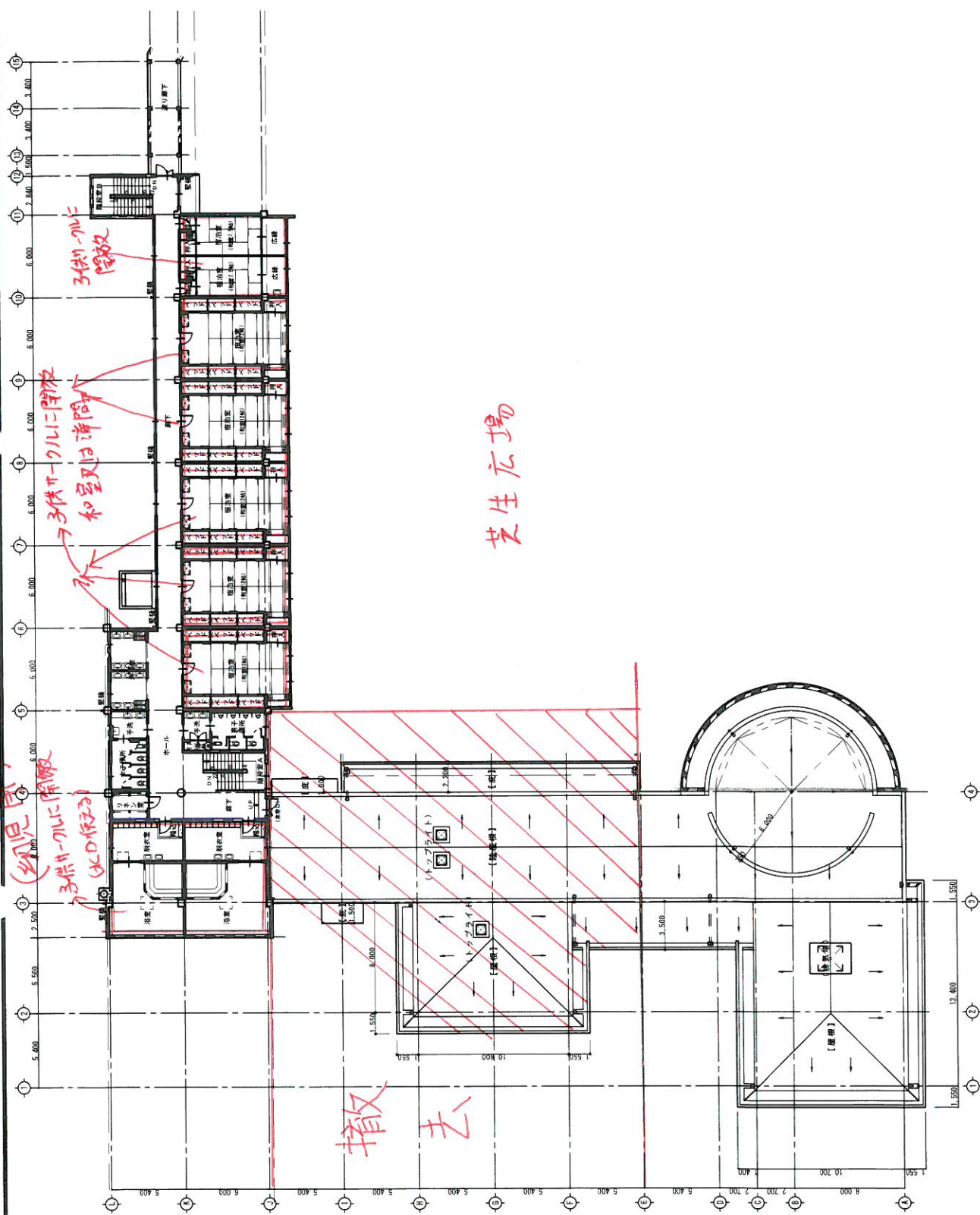
安芸高田少年自然の家を利活用するにあたっては、総合的な観点から計画づくりする必要があると考えます。それは地域住民のための集い、交流、憩いの施設として、小さな子どもたちを持つ親の交流や子どもの遊び場として、宿泊施設の少ない安芸高田市における宿泊施設として、企業や団体のレセプションや宴会会場として、市内外の小中学生の生涯学習や野外学習施設として、企業団体の研修施設として、スポーツ合宿施設として、日本語学習の拠点として、多文化共生の拠点として、外国人の交流できるまた運営母体としては、民間企業ではコスト面で、経営側及び顧客側双方にメリットが見いだせない結果となり、継続的な運営が見込めない

そのためには地域住民もしくは、施設にかかわりを持つ団体が共同で、NPO 法人（特定非営利活動法人）を立ち上げて、管理運営し経営することが望ましい（広島県は、NPO 特区を取得しており、通常2か月かかる NPO 法人化が、現在2週間で NPO 法人化することが可能となっている）



図面名	安芸高田少年自然の環境改善工事	図面番号	A-19
工事名	安芸高田少年自然の環境改善工事	縮尺	1:200
図面名	リニューアル後 1階平面図		

(見取図)

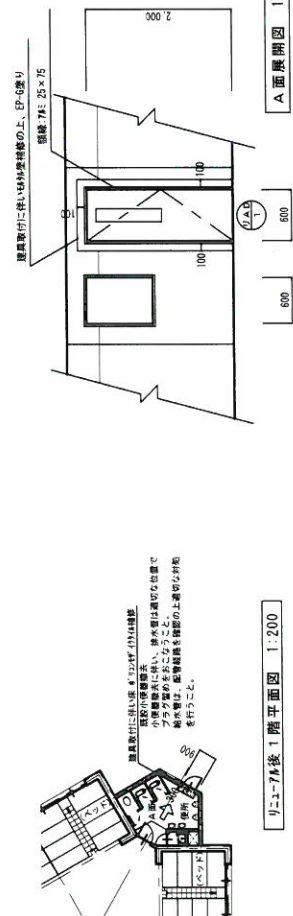


工事名 安芸高田少年自然の環境改善工事		図面名 本館2階平面図	図面番号 A-20
図面名 本館2階平面図		縮尺 1:200	

[illegible]

既設2階平面図 1:200

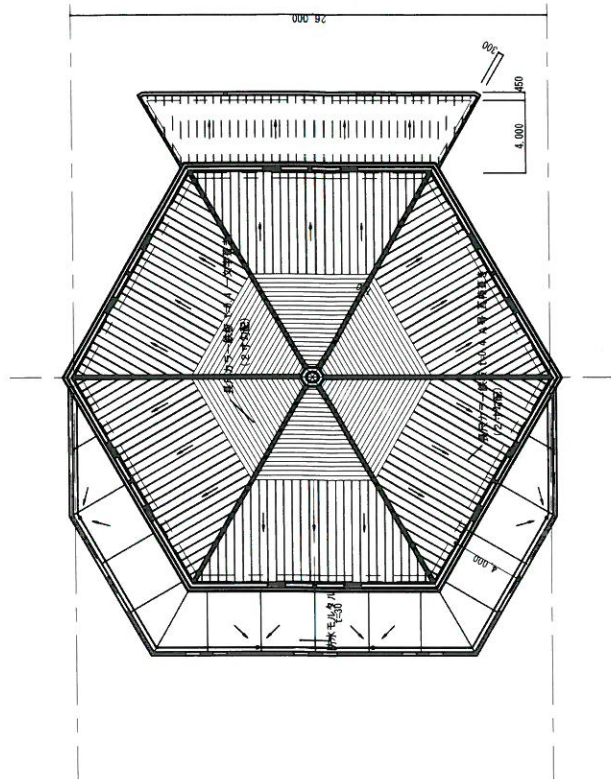
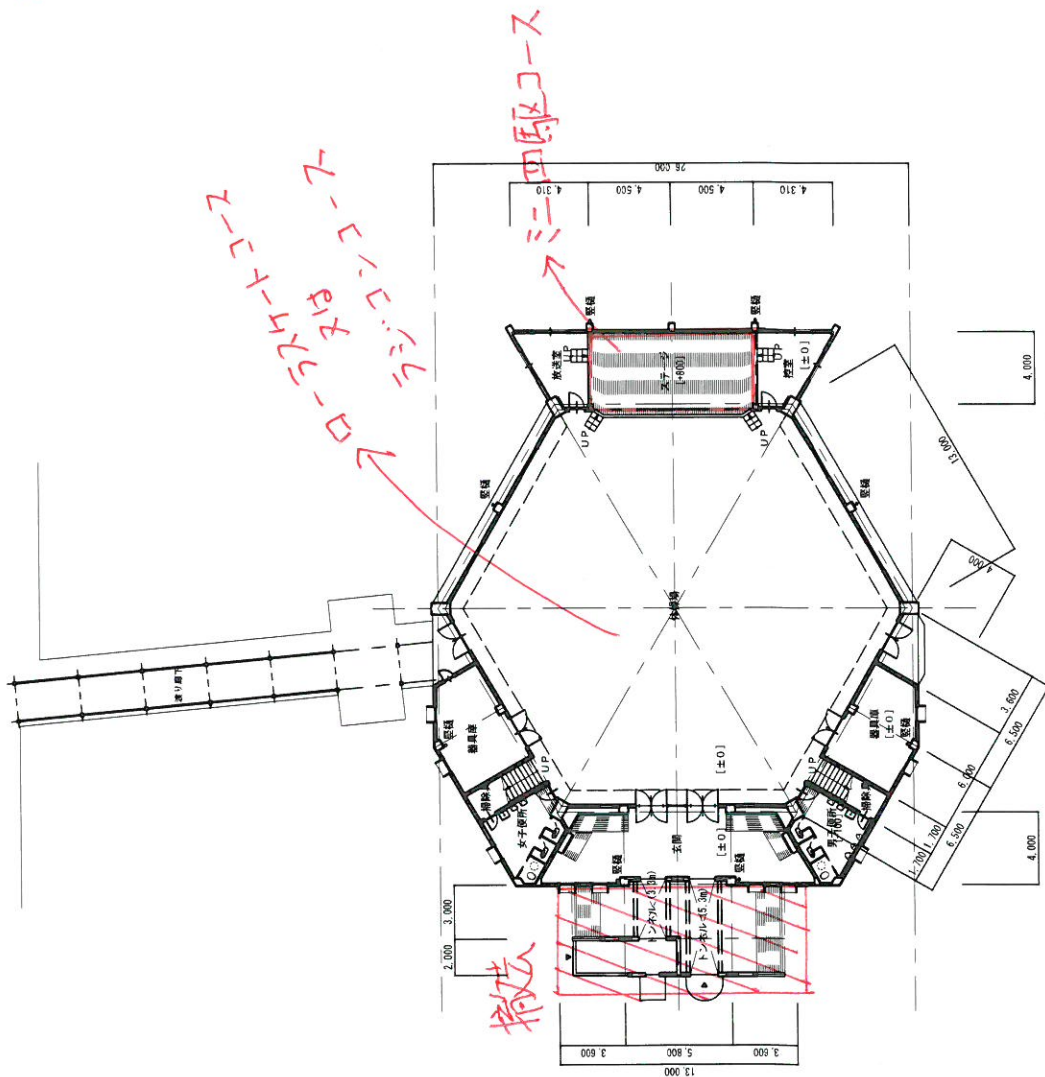
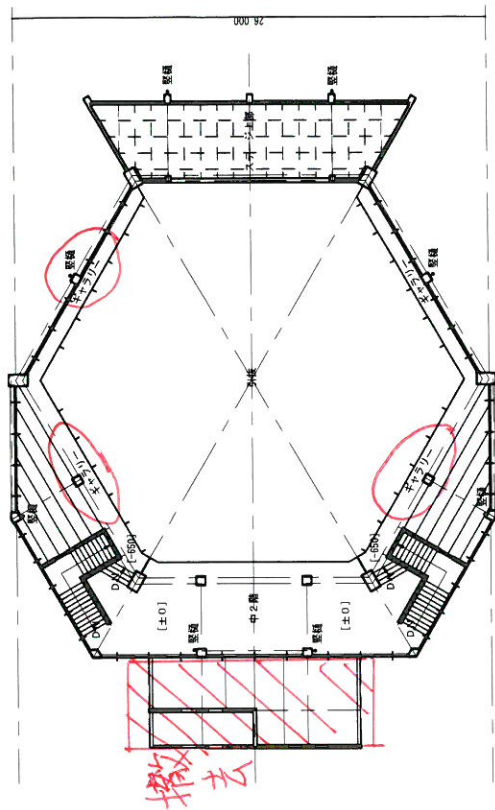
既設屋根伏図 1:200



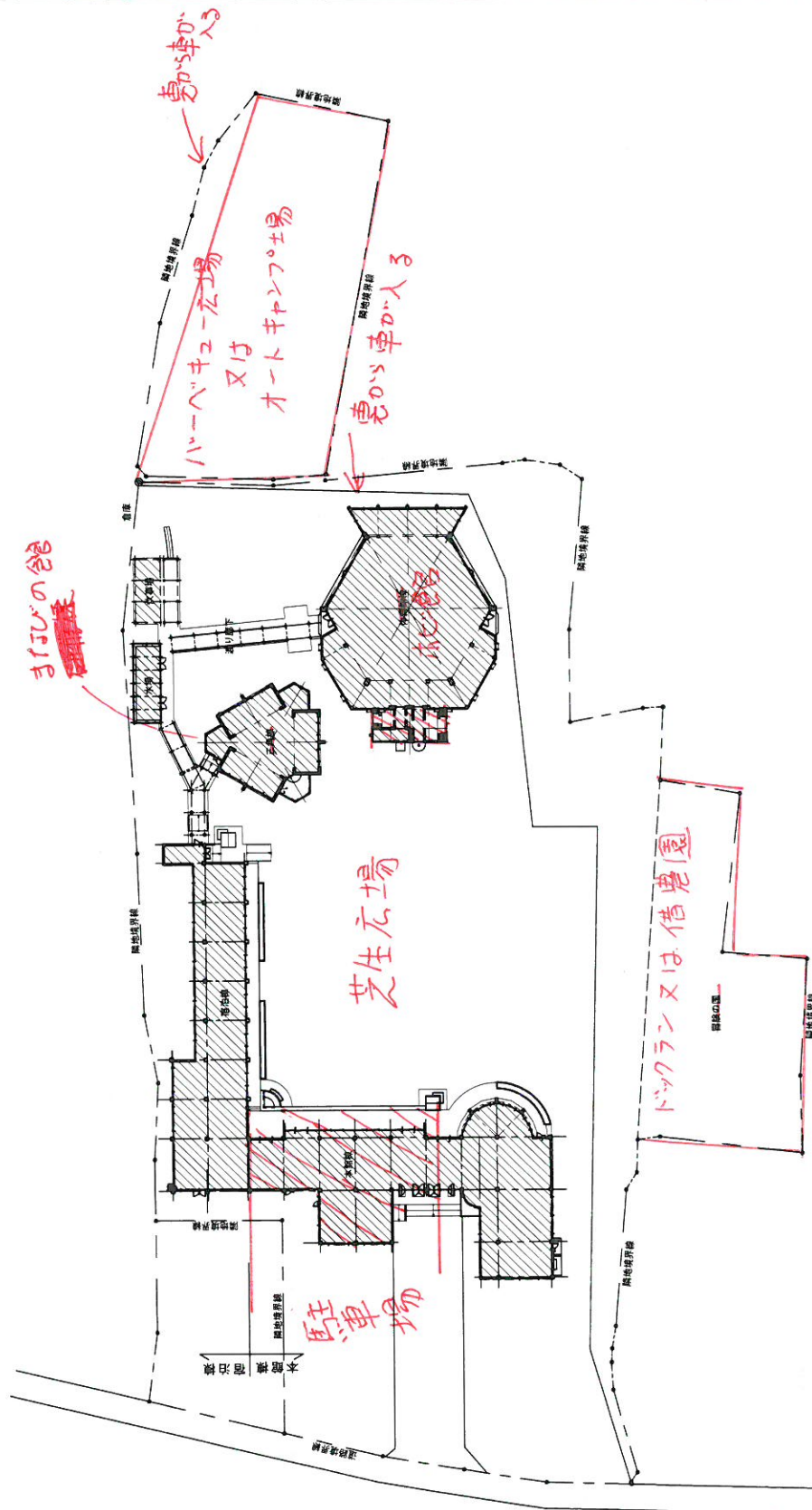
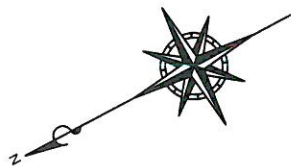
リニユ-7A後1階平面図 1:200

A面展開図 1:50

	工事名	少年自然の家リニューアル工事	図面番	A-21
	図面名	三角棟 1、2 階平面図、屋根体図	縮尺	1:200



安芸高田市		工事名	安芸高田少年自然の家改修工事	図番	A-92
		図面名	体育館棟1、2階平面図、屋根伏図	縮尺	1:200



図番	工事名	安達高田少年自然の家改修工事	安達高田市
A-11	図面名	配置図	
	縮尺	1:500	

王ら登

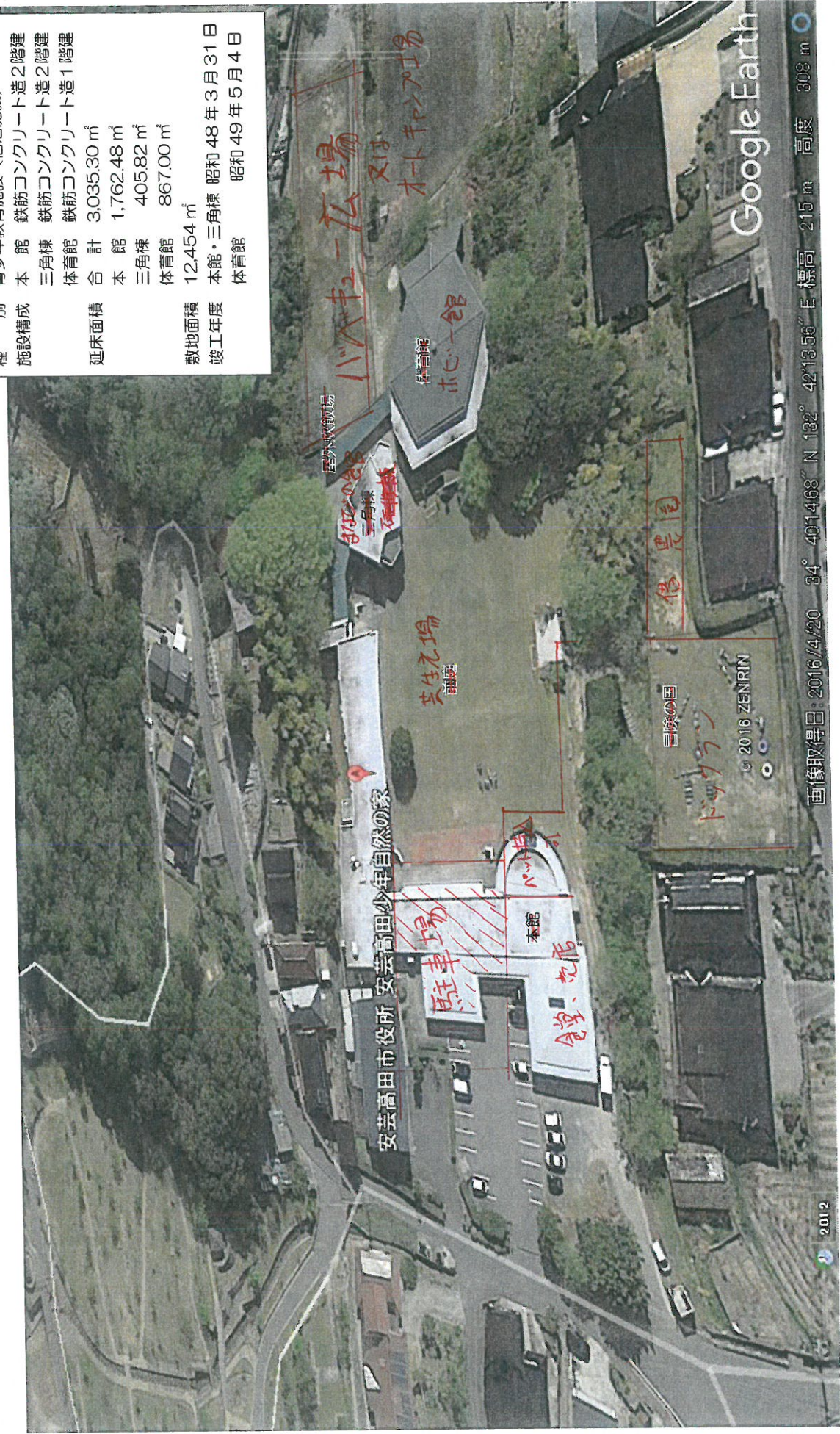
毛利公園 → 三本の木 → 少年自然の家 → 施設

毛利公園

資料 4

安芸高田少年自然の家の現況

名称	安芸高田少年自然の家
所在地	安芸高田市吉田町吉田 406 番地
種別	青少年教育施設（宿泊施設）
施設構成	本館 鉄筋コンクリート造 2 階建 三角棟 鉄筋コンクリート造 2 階建 体育館 鉄筋コンクリート造 1 階建
延床面積	合計 3,035.30 m ² 本館 1,762.48 m ² 三角棟 405.82 m ² 体育館 867.00 m ²
敷地面積	12,454 m ²
竣工年度	本館・三角棟 昭和 48 年 3 月 31 日 体育館 昭和 49 年 5 月 4 日



「毛利三本の矢×村上水軍」具体的な方法 資料

今回の草案も「毛利三本の矢×村上水軍」と同じ主題で構想しました。

前回はスピリットを中心に創案しましたが、今回は具体的な方法について考えてみました。

毛利三兄弟の本拠地は、安芸高田、北広島、三原で、一方、村上水軍はしまなみの小島です。これを大雑把に二分しますと、広島北部と西部瀬戸に分かれます。そこで、A 班、B 班の2グループを構成して、「歴史のつどいと三矢の夕べ」と題して1泊2日の学習旅行を組みます。

(1)まず、両班の参加者をイメージしました。

A 班:安芸高田市、山県郡またはその周辺の中学 1, 2 年生。または小学 5, 6 年生。

B 班:三原市、尾道市、しまなみ地区の中学 1, 2 年生。または小学 5, 6 年生。

(中学生を募集する場合は、A, B 班ともに中学生のみを対象にします。小学生の場合も同様です。)

いずれも、参加者 1 名につき保護者が 1 名付き添うことを原則とします。

なお、保護者は、途中交代できるものとします。例えば、1 日目～2 日目の午前まではお母さんが引率、2 日目午後はお父さんが引率するなど、です。

本案では、広く浅く利用客を集めるのではなく、焦点を三原・瀬戸地区の中学生(または小学高学年)に絞り込むという考え方です。

(2)A 班と B 班の大まかな行動パターンは以下のとおりです。

	1 日目(土曜日)	2 日目(日曜日)
A 班	吉田集合→山県郡吉川元春ゆかりの地探訪→吉田歴史資料館→郡山城跡→少年自然の家(原始的炊飯と手作りおむすび, 研修室で講義, キャンプファイヤー)→泊	自然の家→三原へ移動→三原城→(しまなみ大島の村上水軍博物館)→広島市へ移動→カープデーゲーム観戦→帰る
B 班	三原集合→三原城→(しまなみ大島の村上水軍博物館)→山県郡吉川元春ゆかりの地探訪→少年自然の家(原始的炊飯と手作りおむすび, 研修室で歴史の講義, キャンプファイヤー)→泊	自然の家→郡山城跡→吉田歴史資料館→広島へ移動→カープデーゲーム観戦→帰る

A, B 両班で、異なる場所で集合し、同じ場所で夜に集い、翌日午前は別行動、その後、マツダスタジアムで半日ぶりの再会という流れです。

自然の家に利用客を招くには、ただ呼びかけるだけよりも、こちらからも相手の地域を訪問し、持ちつ持たれつの関係をつなぐ方が、より深い交流ができると思います。したがって、ここでは“吉田泊”の日程をお示ししましたが、別の機会も設けて三原方面で夜の集いを行い、公平な相互探訪ができれば、より印象深い交流ができると思います。できれば、このような企画を年に4回程度催し、うち2回は吉田泊、あとの2回は三原方面で集います。

夜の集いで学年の近い子供たちが交流し、1年後、再度、同企画に参加して感動の再会を果たすことができれば理想的です。理想通りにならなくても、両地区の子供たちまたは父兄どうしが、メールやSNSなどで交流を続けてもらえれば、将来、三原から安芸高田市への流入者が現れるかもしれません。(もちろん、安芸高田市から三原地区への流出者も覚悟しなければなりません。)

村上水軍博物館は、時間的に難しいかもしれませんが、別の機会を設けてでも、訪れることができれば理想的です。瀬戸の大島は、愛媛県今治市に位置します。もし、行動範囲をここまで広げられれば、安芸高田地区と三原地区との交流にとどまらず、将来的には、四国を巻き込むことも視野に入れられるかもしれません。

(3)付き添い講師が両班に各1名、計2名必要です。安芸高田地区または三原地区の市職員または学校教師または両地元企業の従業員の中から、歴史に詳しく愉快的話ができる人を擁します。夜の講義も行ってもらいます。それぞれの参加者には、地元の観光地へ行ったことがある人、景勝地を見慣れている人も多いでしょうが、これまでとは違った視点で歴史探訪できれば、新たな楽しみも生まれるかもしれません。

(4)中学生を対象とした場合に限りませんが、夜の集いでは、英語圏の外国人を1～2名招き、中学生たちに生の英語を体験してもらうのもいいかもしれません。

(5)募集人数は、各班ともバス1台に乗車できる人数と、自然の家に泊まれる人数の少ない方を定員とします。

(6)会費は、親子2名一組で¥12,000～15,000程度だったら参加しやすいと思いますが、ズムスタの入場料も含めるとこの金額では難しいかもしれません。教育・学習が目的のイベントですので、主催地域の市町からの援助も得られるかもしれません。

(7)行程表にも記しましたが、参加応募を促すために、カープ観戦を組み込みます。そのため、開催市が人数分のカープチケットを確保する必要があります。この条件を満たせなければ、この創案は水泡に帰することになります。最初に参加するきっかけはカープであっても、楽しく充実した体験をしてもらったならば、2度目からはカープという「エサ」がなくても、少年自然の家や三原地区の同様の施設を利用する機運も高まると期待できます。数年後には、「吉田で“三矢の夕べ”を開催します」と広告しただけで予約が殺到・・・というのは夢を見すぎでしょうか。

自治体でカープチケットを手配することが難しい場合、RCCに要請しチケットを手配してもらうことができた・・・などと思いましたが、これこそ非現実的でしょうか

もし、RCCの協力が得られたならば、チケット入手だけでなく、TVのカープ中継の最中に、アナウンサーに企画を紹介してもらったり、試合中にカメラで参加者集団をズームアップしてもらえたら、PRにもなって一石二鳥になるかもしれません。さらに欲を言えば、アンガールズに吉田(または三原)まで来てもらって、「元就」で(毛利つながりの)テーマとして取り上げられでもすれば、バズーカ級の一石三鳥となって、「サイコーデース！！」

少年自然の家利活用意見取りまとめ

種別	No.	利用方法	利用方法補足	提出元	備考
A:公園・広場等	1,37	・更地にして公園化。市民の憩いの場。		商工会 応援の会	
	2,53	・本館を解体し、お祭り広場として活用。 ・一心祭りの会場。		商工会 応援の会	
	10	・自然の家、自然のひろば。	名称の変更、現状のまま利用。	工業会	
	14,15 42,48	・バザーなどのイベント広場。	歴史の紹介、バーベキュー広場 ビアガーデン、夏祭り、夜神楽	工業会 応援の会	
	16	・サンフレ、カープの応援観戦。		工業会	
	35	・サバイバルゲームの実施。		応援の会	
	49	・冒険の森をドッグランとして利用。		応援の会	
	54	・更地にして、市の駐車場にする。		応援の会	
B:文化施設	3	・体育館を文化創造センターの代替として利用。		商工会	
	51	・毛利記念公園（施設）。	郡山城からの出土品を陳列。	応援の会	
	80	・講演会、研修会場。	三角棟を活用。	利用者代表	
	84	・日本語教室。	留学生の受入の推進。	利用者代表	
C:商工業施設	76	・SOHO 形式の事務所。	地元振興会、国際交流協会など事務所を必要とする団体のための事務所。	利用者代表	
D:オープンスペース	58	・フリースペースとして開放。	三角棟を階段教室として整備。	応援の会	
	71	・自然の家守プロジェクト。	利用したい人が定額を負担。	利用者代表	

E:市の庁舎	9,50	・ 合同庁舎的な活用。 ・ 分庁舎的な活用。	子育て施設、高齢者福祉施設なども併設。	工業会 応援の会	
F:公民館・避難所	43,64	・ 非常時の避難場所。	ベッド等があるため。	応援の会 利用者代表	
	56,63	・ 地域活動、民謡、カラオケなどの活動に利用	和室が十分な大きさ。	応援の会 利用者代表	
	60	・ 防災公園。	平時は会議室、イベント会場とし、災害発生時には避難所として利用。	地域代表	
G:福祉施設	17	・ 健康増進施設。	フィットネス設備等を設置。	工業会	
	61	・ 老人福祉施設。		地域代表	
	79	・ 入浴施設。	地域のコミュニティ風呂。	利用者代表	
H:農業施設	20	・ 都会の人向けの農業の体験施設。		工業会	
I:子育て施設	18	・ 保育園。		工業会	
	21	・ 受験生のための勉強スペース。		工業会	
	28,82	・ 子どもの遊び場空間。	・ 大型遊具、ボルダリング、ボールプールなど。 ・ グランドの活用。	観光協会 利用者代表	
	40	・ 子育て世代が集まる場所。		応援の会	
	57	・ 子どもの活動拠点	子ども新聞、工作教室など	応援の会	
	81	・ 雨天時の子どもの遊び場。	体育館（従来通りの活用）	利用者代表	
J:スポーツ施設	19,31	・ スポーツ合宿のための施設。	吉田運動公園、サッカー公園と連携	工業会 応援の会	
	34	・ ボルダリングの施設	三角棟を利用	応援の会	

	46	・屋内遊技場	体育館をラジコン、ミニ四駆コース、スケボー、ローラースケートコースとして利用	応援の会	
	65	・大通院谷公園にグランドゴルフ場を整備し、そのクラブハウスとして活用。		利用者代表	
K:体験施設	23	・市の野菜を使ったピザづくり体験工房		工業会	
	32	・神楽の体験施設		応援の会	
	66	・みんなの家「輝ら里」として再出発。		利用者代表	
	67	・郷土環境学習、子育ての場。	工作、野外炊事等の体験。	利用者代表	
	73	・安芸高田里山生活楽校。	安芸高田ライフスタイルを体験できる。	利用者代表	
	75	・世代間交流のできる宿泊型施設。		利用者代表	
L:観光	8	・キャンピングカーのレンタル基地。	道の駅、温泉施設との相乗効果。	工業会	
	11,12	・安芸高田、北広島、三原と連携した観光の取組。	・歴史的側面 ・文化的側面	工業会	
	26	・郡山城跡ガイド案内場所、休憩所、お土産販売所		観光協会	
	59	・ふるさと産品販売施設		応援の会	
	70	・体験型ツーリズムの拠点施設	既存の施設を利用した体験型プログラムを観光協会、ガイド協会で企画。	利用者代表	
M:宿泊施設	4,62 78	・ユースホステル、ゲストハウスなどのような簡易宿泊所。	観光協会、旅行代理店と外国人向けに市の周遊プランを作る。	工業会 利用者代表	
	7,22	・オートキャンプ可能な宿泊施設。	トイレ、シャワーは、既存施設が利用可能。	工業会	

	24	・簡易宿泊所＋農業用クラブハウス。	・ゴルフ利用者の簡易宿泊施設。 ・農機具、軽トラ等の貸出し。 ・農業講座、草刈イベントなど。	工業会	
	25	・空き家バンク利用者が住宅改築中の仮住まい用の施設。		工業会	
	27,41	・宿泊施設としての活用。		観光協会 応援の会	
N:企業施設	13	・市内企業共通の独身寮又は若手のシェアハウス		工業会	
	69	・ものづくりワークショップ。	マツダ系企業技術職の育成の場。	利用者代表	
O:学校施設	68	・トップアスリート育成寮	高校ハンドボール	利用者代表	
P:飲食店	6,83	・市の和牛、ジビエを提供するバーベキュー施設		工業会 利用者代表	
	72	・郡山レストハウス。	郡山登山客向けのコーヒー、菓子の提供	利用者代表	
	77	・企業等の会食にも使える大型のレストラン。		利用者代表	
Q:その他	5,38	・使いみちを指定せず、全て民間に委託。		工業会 応援の会	
	45	・企業等の保養所として売却。		応援の会	
	47	・NPO 法人を立ち上げる。		応援の会	
	52	・隣接する安芸高田市地域振興事業団に管理を一任。		応援の会	